

第8分科会

特別支援教育

通常学級における気がかりな子どもも含めた認め合い学び合う学級づくり・学校づくり

前半は、講師の小杉真一郎さんから提示された事例について、支援や指導など対応の仕方をグループで検討した。チームで動くことや本人の困り感の整理、家族のサポートの方法など多くの建設的な意見が出された。また、実際の3年間にわたる支援について聞き、保護者の理解と協力を得ることや個別指導と全体の中での指導を併せて行うこと、オフィシャルなケース会議をもつことの重要性などを学んだ。

後半は、参加者の実践や悩みなどを話し合った。ともに考えたりアドバイスをもったりして、明日からの実践のヒントを見つけてくることできた。



第9分科会

教科(技術・家庭科)

和の文化を探ろう

〜見て、触って、着て、考える〜

講師の山本秀明さんから、着物は日本文化を象徴する大切なものであり、日本独特の色柄の美しさや、着物ならではの身のこなしの良さを感じ取ってほしいという「着物・愛」に溢れたお話をいただいた。その後、本職の着付けの先生に教えていただきながら、実際に浴衣を着用する体験を通して、伝統的な衣装の智慧や装いの楽しさを味わうことができた。参加者同士で教え合う場面が自然に生まれ、和文化に親しみ考える和やかな一時となった。



第10分科会

教科(理科)

イカの解剖・説明・実習・考察

全て1コマ50分でやり遂げます!

〜タブレットを活用したアクティブラーニング授業術〜

開成中学校、松間建志郎教諭を講師に迎え、中学校第2学年「動物の分類」における「イカの解剖」の模擬授業を行なった。導入、解剖、考察、振り返り、後始末を50分間で行う授業実践の紹介である。

まず、ヒトとイカで、共通する器官と独自の器官をベン図に記入した。次に、タブレット端末に収録した解剖の手順を視聴しながら、二人一組で、①全体の確認、②外とう膜の切開、③墨汁の抽出、④口器の抽出、⑤血管の抽出、⑥胃の観察、⑦えらの抽出、⑧目の抽出、⑨内臓の抽出、⑩カトルボーンの抽出を行い、からだの特徴を話し合った。参加者からタブレット端末の活用について高い評価を得た。

模擬授業の後、イカを

ホットプレートで美味しく焼いて食べながら、教育談義で大いに盛り上がった。



第12分科会

母と女性教職員の会

保護者と教職員が手をつなぎ、子どもたちの幸せな未来のために「今何をすべきか」共に考え、行動しましょう。

はじめに4つの支部から話題提起(発表)があり、その後教職員と保護者混合の8つのグループに分かれて、意見交換を行った。今年度の発表はそれぞれ違う立場の方々だったので、内容も豊富で、参加者の方々もいろいろな角度から活発に話し合うことができた。途中でグループのメンバーも交代したことにより、多くの方々との意見交換することもできて、参加者の方たちの視野も広がったように思う。「ざっくばらんに話ができよかった」という感想も多く寄せられた。終始和気あいあいとした温かい雰囲気の中で会が進行し、最後はお二人の県会議員の方からご助言をいただいた。あつという間に終わりの時間になってしまった。

